

船舶事故調査報告書

平成26年6月5日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	転覆
発生日時	平成26年2月1日（土） 12時55分ごろ
発生場所	静岡県西伊豆町 ^{たご} 田子島東方沖 田子島灯台から真方位094° 590m付近 （概位 北緯34° 48.6′ 東経138° 45.1′）
事故調査の経過	平成26年2月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ^{つかさ} 司丸、5トン未満 242-11073 静岡、個人所有 4.32m (Lr) × 1.66m × 0.84m、FRP ガソリン機関、7.3kW、昭和60年12月
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成10年10月22日 免許証交付日 平成25年3月27日 （平成30年10月21日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損（沈没）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、田子島北方沖において、漂泊して釣りを行っていたところ、平成26年2月1日12時30分ごろ風が少し強くなってきたので、船長が、釣り竿 ^{さき} を片付け始めたものの、10分～15分ぐらいは大丈夫だろうと思い、同乗者には釣りを続けさせた。 船長は、南方の空が黒くなってきたので、風が強くなると思い、帰ることとし、12時40分ごろ、西伊豆町田子漁港港口中央付近へ向け、約5ノットの対地速力で南東進を始めた。 本船は、船長が船外機を操作して航行中、左舷船首からの波しぶきが船内に入りだし、田子島の東方を通過した頃から、急に南西の風が東寄りに変わって強くなり、時々、波高約0.5～1.0mの波が左舷船首から打ち込んだ。 本船は、田子島東方約550m付近に達した12時50分ごろ、船

	<p>首が下がり始め、船長が、異常を感じ、船外機のスロットルを中立として停止したところ、船首側にかなりの海水が溜まっていることに気づき、同乗者A及び同乗者Bがバケツで排水作業を始めたものの、船内に更に波が打ち込み、排水が間に合わなくなった。</p> <p>本船は、波に対して平行になり、船尾が下がり始めてピッチングしながら、船尾から波高約1mの波を2～3回受け、トランサム^たの凹部から大量の海水が入り、水船となった。</p> <p>本船は、12時55分ごろ、田子島東方沖において、船首が約180°回って左舷側から転覆し、船長、同乗者A及び同乗者B（以下「船長等」という。）が海に転落した。</p> <p>本船は、船長等が船底をつかみかけたとき、船尾から沈没した。</p> <p>船長等は、クーラーボックスなどにつかまりながら、救助を待っていたところ、付近で釣りをしていた船外機付きゴムボート（以下「ミニボート」という。）が本事故に気付いて接近して来たので、ミニボートにつかまって弁天島北側の対岸にある磯場まで引かれ、13時00分ごろ波で洗われる磯場に上がって救援を待った。</p> <p>船長等は、約20分後、ミニボートから連絡を受けて来援したダイビングスクールのボートに救助され、田子漁港まで搬送された。</p> <p>船長等は、低体温症になったが、けがはなかった。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 4</p> <p>海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の末期、海水温度 約14℃</p> <p>西伊豆町には、1月30日11時00分強風波浪注意報が発令され、2月1日02時43分解除されていた。</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本船と同様の和船タイプのプレジャーボートの操船経験が約16年間で約240回あり、本事故発生場所付近の航行は、釣りで秋から冬にかけて約40～50回あった。</p> <p>船長は、本事故当日、04時ごろにインターネットで気象情報を入力しており、西伊豆町の風の予報は、06時が約1m/s、09時が2m/s、12時が約3m/sであり、波高は約1.0～1.5mであった。</p> <p>船長は、ふだん、風の予報が約4m/s 以上の場合は、出発を取りやめていた。</p> <p>本船は、釣り中の船首部及び船尾部の乾舷が約40cmであった。</p> <p>船長及び同乗者Aは、自動膨張式救命胴衣を、同乗者Bは固形式の救命胴衣をそれぞれ着用していた。</p> <p>船長の自動膨張式救命胴衣は、ミニボートで引かれた頃に膨張した。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p>

判明した事項の解析	<p>本船は、田子島東方沖を南東進中、左舷船首から波が打ち込み、海水が船首寄りの船内に滞留して船首が下がり、船長が異常を感じて停船し、同乗者A及び同乗者Bがバケツで排水作業中、船尾から波高約1mの波が打ち込んだことから、水船状態となって左舷側から転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、風の予報が約4m/s 以上の場合は、出発をやめていたが、出発前の気象情報により、午前中は風の予報が約4m/s 以下であったことから、釣りに出発したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、田子島東方沖を南東進中、左舷船首から波が打ち込み、海水が船首寄りの船内に滞留して船首が下がり、船長が異常を感じて停船し、同乗者A及び同乗者Bがバケツで排水作業中、船尾から波高約1mの波が打ち込んだため、水船状態となって左舷側から転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出発前日が荒天の場合、うねりが残っていることがあり、小型船舶は出発を中止することが望ましい。 ・ 天候の悪化が予想される場合は、出発を中止すること。 ・ 天候が悪化した場合、気象及び海象の状況に応じ、早期に最寄りの安全な場所への避難も考慮すること。 ・ 小型船舶は、風や波の影響が少ない海域で釣りをすること。 ・ 自動膨張式救命胴衣は、取扱いに留意し、手動で膨張させる方法を熟知しておくこと。